

2025

京都市立芸術大学のれん百人衆 活動報告書



令和7年度 御支援者様 (令和8年3月31日現在)

巖本 博

(巖本金属㈱ 代表取締役社長)

株式会社SGC

株式会社大垣書店

株式会社祇園辻利

北尾 哲郎

(日東薬品工業㈱ 最高顧問)

一般財団法人京都花鳥館

京つけもの 西利

京料理 やまの

株式会社コスモネット

ジェイアール東海関西開発株式会社

株式会社ジェイアール東海ホテルズ

株式会社島津製作所

株式会社松栄堂

株式会社聖護院八ッ橋総本店

株式会社ゼロホールディングス

医療法人知音会

株式会社長栄

株式会社東邦レオホールディングス

東レエンジニアリング株式会社

株式会社トーセ

戸塚亮一

株式会社内藤建築事務所

一般財団法人NISSHA財団

公益財団法人日新電機グループ

社会貢献基金

株式会社堀場製作所

渡辺 孝史

((株) 一保堂茶舗 代表取締役会長)

山本 毅

(敬称略/五十音順)

目次

CONTENTS

1. ご支援いただいた皆様へ 理事長・学長メッセージ	p1
2. 学生の自主活動への支援	p2
- 常磐津部の学生による「常磐津部芸大祭公演」・「第七回常磐津部展」	p2
- 現代音楽研究会 club Moco「第4回定期演奏会」	p3
- 京芸茶道部のもみぢ茶会とももばな茶会	p4
- 京芸ファッションショー2025	p5
- Not arms But arts「平和を考えるコンサート vol.2」	p6
- 「BORDER!s Live Paint」	p7
- 京芸吹奏楽部研究会ぺんぎんウィンドオーケストラ「第1回定期演奏会」	p8
- 京都市立芸術大学オーボエ・ファゴット専攻「第24回ダブルリード大演奏会」	p9
- 「第9回京都市立芸術大学サクソフォン専攻生によるアンサンブルコンサート Saxtation」	p10
- ロマン派音楽研究会「室内楽シリーズⅡ」「第2回オーケストラ定期演奏会」	p11
- 京芸古典派音楽研究会「第9回定期演奏会」	p12
- 京芸トランペット専攻生による「第20回演奏会」	p13
- 京芸・大学院音楽部 管・打楽器専攻 トロンボーン専攻「THE BONES 2026」	p14
- 京芸ユーフォニアム・チューバ専攻によるアンサンブル演奏会「Low Notes vol.5」	p15
- 京芸打楽器専攻生によるアンサンブルコンサート「The Percussion Vol.16」	p16
- 書道部ワークショップ「墨を磨って、筆をとろう」	p17
3. 学部・専攻等への支援	p18
- 美術研究科保存修復専攻	p18
- 「アートスペース k.k aneshiro」	p18
- 美術研究科日本画専攻	p19
- 美術学部・美術研究科「作品展」	p20
- 第179回定期演奏会 大学院オペラ公演 G.ドニゼッティ「愛の妙薬」	p21
- 第54回卒業演奏会	p21
4. 令和7年度 のれん百人衆成果報告会	p22

未来の芸術家支援
のれん百人衆

ご支援いただいた皆様へ

日頃より、京都市立芸術大学の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本学では、2016年度に驚田清一元学長の発案により、支援制度「のれん百人衆」を創設し、皆さまから「未来の芸術家たち」へのご支援をいただいております。

本制度は、単なる大学への寄付にとどまらず、「特定の分野を応援したい」「その成長を見守りたい」という皆さまのお気持ちを受け止め、学生たちの活動を支える仕組みです。オペラや演奏会・展覧会の開催、楽譜や材料の購入、意欲ある学生の自主的な活動への支援など、これらの取り組みは、「のれん百人衆」の皆さまから長年にわたり寄せられてきた温かいご支援により支えられ、着実に充実してまいりました。こうしたご支援は、学生たちの成長にとって大きな力となっております。学生・教職員一同、心より御礼申し上げます。

本報告書を通じて、学生たちの喜びと感謝の気持ち、そして内に秘めた情熱や才能の輝きを皆さまにお届けすることができましたなら、これに勝る喜びはございません。

今後とも、芸術文化の継承と発展を担う学生たちを温かく育てていきますので、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公立大学法人京都市立芸術大学理事長・学長

小山田 徹

常磐津部の学生による 「常磐津部芸大祭公演」・「第七回常磐津部展」への活動支援

団体について

常磐津部は、常磐津節を学び・遊び・表現する、世界にただ一つしかない部活動です。2015年に発足し、現部員は20名、美術科の学生が多く在籍することが特色です。週に2回、主に日本伝統音楽研究センターの施設を借用して、浄瑠璃（歌や台詞）と三味線などの稽古を、指導者（常磐津音花先生（小西志保・伝音共同研究員）・常磐津若音太夫先生（竹内有一教授））のもとで行っています。

活動を終えて

芸大祭公演では古典曲「将門」をアレンジしました。本年も制作と稽古の両立が難しくオンラインも併用しました。衣装・美術・番付などの制作は連絡を密にして取り組みましたが、度重なる修正が発生し苦心しました。毎年同じ演目ですが、演出・振付を大幅に変更し、エンディングでは箏を取り入れ、これまでとは違う斬新な舞台を披露しました。常磐津部独自の編曲を施した現代曲では、姫の衣裳と意匠をこらした小道具が華やかな彩りを加え、それらの制作は常磐津部展への展示に繋がりました。本番では200の客席は埋まり、多くの拍手をいただきました。



常磐津部展（2026年1月10日～11日、A棟セミナールームで開催）では、ミニコンサートを毎日2回行い、私たちの活動をより知っていただけるようにしました。展示は来場者に鑑賞しやすいよう配置を考え、靴を脱いで作品を手にとれるスペースを作りました。「芸術大学だからこそ作り上げることのできる総合芸術」「京都芸大で学ぶ学生の底力を、古典芸能の素晴らしさと共に、多くの人々にご覧いただく」という目的は今後も継続していきたいと考えています。



のれん百人衆寄付者さまへ

たくさんの応募の中から常磐津部を選んで下さり、深く感謝いたします。皆さまのご支援のお陰で私たちの活動は成功し、十分な成果をあげることが出来ました。

また、活動から大きな学びを得たことは、かけがえのない財産となりました。これからも頑張ります。本当にありがとうございました。

現代音楽研究会club MoCo「第4回定期演奏会」への活動支援

企画の概要

現代音楽研究会 club MoCoは年間を通していただく依頼公演に加え、年に一度学外での定期演奏会を企画しています。本演奏会は、「現代音楽を、京都から」というモットーを掲げる私達が一年間をかけて取り組む集大成の演奏会であり、関西における現代音楽の普及の一翼を担うこと、楽曲分析やリハーサルを通して現代音楽に関する知識や高度なアンサンブル能力を培ったり、演奏会運営を通してそのノウハウを学ぶことを目的としています。

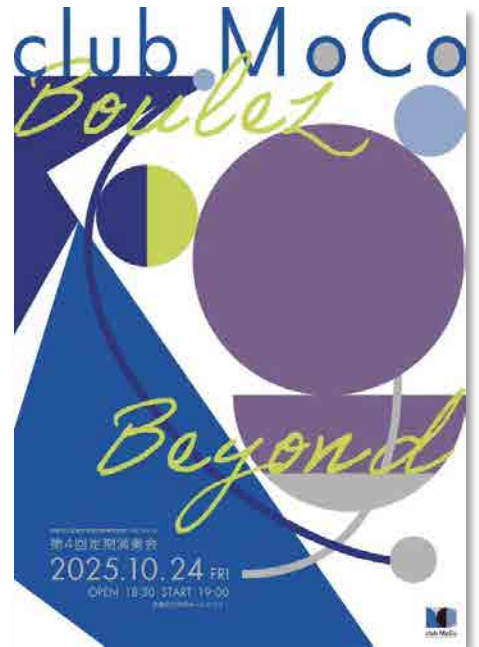
【公演内容詳細】

公 演 名:京都市立芸術大学 現代音楽研究会 club MoCo
第4回定期演奏会

開催日時:2025年10月24日(金)

会 場:京都府立府民ホール アルティ
〒602-0912 京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町590-1

出 演:京都市立芸術大学 現代音楽研究会 club MoCo
森脇涼(指揮)
豊嶋泰嗣(ヴァイオリンソリスト)
松村衣里(ハープ)



活動を終えて

広報活動でSNS発信を通して幅広い層に向けて現代音楽の情報を届けることができ、現代音楽の普及という目標に大きく寄与しました。今回はソリストとして本学教授・豊嶋泰嗣先生をお迎えし、高いアンサンブル能力が要求される作品に取り組みました。学生主体の綿密な準備もあり、質の高い演奏を実現できました。また、彫刻専攻と協働し特殊な楽器を一から制作したことは、本学ならではの貴重な学際的経験となりました。

さらに日本初演作品を扱うにあたり、海外出版社との著作権処理や申請手続きなど、外国語での交渉や契約内容の確認、書類提出の段取りを学生のみで行い、国際的な実務を体験しました。

過程を通じて、手続きの複雑さや迅速な対応・正確性の重要性を実感し、文化事業を運営する上で不可欠な知識とスキルを身につける貴重な学びとなりました。



のれん百人衆寄付者さまへ

この度はご支援を賜り、誠にありがとうございました。挑戦的で専門性の高い現代音楽に学生主体で取り組む本企画にとって、皆様のお力添えは何よりの支えとなりました。おかげさまで無事に演奏会を実現し、多くのお客様へ作品の魅力を届けることができました。今後も現代音楽の普及の一端を担うべく、精力的に活動を続けてまいります。

京芸茶道部のもみぢ茶会ともちばな茶会への活動支援

団体について

京芸茶道部は京都に縁の深い伝統文化である裏千家茶道を外部の裏千家正教授の方のご指導の下、本格的に学べるのが特徴の部活動です。



活動を終えて

私たちの主な活動の実施目的は、日本の伝統文化である茶道を学ぶこと、多くの方々に茶道部の活動を通して茶道について知ってもらうこと、の二つでした。

茶道の習得のためには作法の稽古だけではなく、実際にお客様をお迎えしてお茶を点てるのが欠かせません。そして茶会のお客様にも茶道のことをより理解していただけるよう、茶会では「半東」という説明を行う役を設け、お客様にお菓子や抹茶、道具などの説明を行いました。「もみぢ茶会」と「もちばな茶会」を開催し、上記の実践を行うことで実施目的を達成できたと思います。

また活動を通して新たに学んだことは、茶会における軸と花の扱いです。今年度は「もみぢ茶会」において、去年行っていなかった軸と花の設置を行いました。どちらも茶席において大変重要な要素なため慎重に選定を行い、軸は「和敬清寂」の短冊、花は季節の菊を用いることとしました。席中の飾り方だけでなく、その選定などを通して茶道への理解を深めることができました。



のれん百人衆寄付者さまへ

私たちは今年度ものれん支援金のご助力をいただき、2025年度11月に「もみぢ茶会」、1月に「もちばな茶会」を開催し、両会合わせて70名以上のお客様をお迎えすることができました。お客様にお茶をお出しするという茶道の根幹を実地で学ぶ機会をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

京芸ファッションショー2025への活動支援

団体について

「京芸ファッションショー」は沓掛キャンパス時代から続く、京芸祭ステージ企画での発表を目標とし、学年や専攻を問わず、ファッションショーというステージ作品を作り上げることを目的に活動する有志団体です。

企画・運営、舞台設営など裏方の業務から、クリエイター、モデルなど、ショーを作る上で欠かせない役職は全て有志メンバーで構成されています。



活動を終えて

今回の目標である「京芸ファッションショーならではの特別な体験を届ける」ために、私たちは舞台づくりと演出の両面から工夫を重ねました。舞台環境では、機材や設備の特性を生かしたレイアウトを検討し、光や質感、動線にも配慮することで、観客が空間に没入できる演出を実現しました。演出面では、「制作者の視点を観客と共有する」というテーマのもと、制作過程を感じられるパフォーマンスを取り入れました。同時に、照明や音楽、モデルの動きを細かく設計し、それぞれの衣装の魅力が最大限に伝わるよう工夫しました。その結果、公演ごとに異なる空気感を生み出し、その場でしか味わえないショーを実現することができました。



のれん百人衆寄付者さまへ

この度は、京芸ファッションショーの活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまからの温かいご寄付があったからこそ、挑戦的でありながら、大規模かつ実験的な公演に取り組むことができました。

今回の経験を受け継ぎ、今後も京芸ファッションショーは、その時々が持つ力を最大限に発揮しながら、新たな表現に挑戦し続けてまいります。

Not arms But arts

「平和を考えるコンサートvol.2」への活動支援

企画の概要

私たちの団体「Not arms But arts(武器ではなく芸術を手に)」は、有志の音楽団体です。この団体名には、「争いではなく、芸術を通して平和を訴えたい」という強い思いが込められています。

活動を始めたきっかけは、ウクライナとロシアの戦争です。突然始まった戦争のニュースに、大きな衝撃と深い悲しみを感じたのを今でもはっきりと覚えています。私たちが日常の中で当たり前のように音楽を学び、演奏しているその瞬間にも、世界のどこかでは命の危機に直面しながら必死に生きている人がいるという現実、胸が締めつけられる思いでした。しかし、時が経つにつれ、メディアで取り上げられる機会が減り、戦争が続いている事実すら忘れてしまいそうになる日々がありました。このままではいけないという思いから、「平和を考えるコンサート」を企画するに至りました。

このコンサートを通して、出演者をはじめ、ご来場いただく皆さまに「今もなお続く戦争」の現実を改めて知っていただき、平和とは何かについて一人ひとりが考えるきっかけになればと願っております。



活動を終えて

本公演には84名のお客様にご来場いただき、演奏会終了後の募金活動では合計84,860円をお預かりし、その全額を京都市が実施する「ウクライナ・キエフ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」へ寄付いたしました。公演後には京都新聞に記事として掲載されたほか、音楽雑誌『MOSTLYクラシック』2025年11月号にも演奏会レポートが掲載されました。本演奏会では、捕虜収容所で作曲された作品やホロコーストにより命を落とした作曲家の作品、木下牧子をはじめとする日本人作曲家による、戦争や反戦を主題とした合唱作品などを取り上げました。

これらの作品を通して、「Not arms But arts (武力ではなく芸術を手に)」という本企画の趣旨を力強く示すことができましたと感じています。

活動を通じて芸術が社会と深く結びつく意義を改めて実感し、音楽で平和を訴え続けることの重要性を強く感じました。



のれん百人衆寄付者さまへ

この度はご支援を賜り、誠にありがとうございました。非営利の演奏会である「平和を考えるコンサートvol.2」は、妥協のない内容を実現するうえで、皆さまのご支援が不可欠でした。音楽という私たちの言語を通じて、尊い平和への願いを届けられたことを心よりうれしく思います。

「BORDER!s Live Paint」への活動支援

企画の概要

今年のBORDER!sでは、過去イベントにて作家・ご来場者の皆様から好評をいただいたライブペイントをメインにイベントを行いたいと考えています。それに合わせてタイトルに『ライブペイント』という言葉を入れ、より解りやすく親しみやすいイベントを目指しました。

- 【会場】無印良品 京都山科店
(ラクト山科ショッピングセンター1Fスペース)
- 【日程】2025年11月30日(日)



活動を終えて

無印良品京都山科店(ラクト山科 ショッピングセンター)を会場にイベントをさせていただきました。当日は1400人ほどの来場者にライブペイント鑑賞や、制作の余りのハギレを使用したワークショップへご参加いただくことで、普段芸術に縁遠い人と芸術(芸術家)を繋げ、美術の魅力を伝えるという目的を達成できました。本イベントは、本学だけでなく他大学の学生も参加したことで、来場者との交流に加え、学生作家同士の新たな繋がりを生み出し、美術分野の普及という目的を達成しました。企画立案から協賛企業との調整、広報、当日運営までを学生主体で行ったことで、キュレーションや広報、運営に関する実践的な能力を養う貴重な機会となりました。また、運営と作家双方の視点を経験することで、今後の創作活動に活かせる重要な学びを得ることができました。



のれん百人衆寄付者さまへ

この度はBORDER!s Live Paintにご支援頂き誠にありがとうございました。美術のイベントの企画運営を行うことで、美大生として、また今後キュレーターや作家としての活動を目指す上で、大変有意義な経験をさせていただきました。今後も自分達の学びの他、若手作家支援、美術分野の発展を目的に精力的に活動してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

京都市立芸術大学吹奏楽研究会ぺんぎんウィンドオーケストラ 「第1回定期演奏会」への活動支援

団体について

吹奏楽研究会ぺんぎんウィンドオーケストラは、2024年4月に音楽学部生を中心に設立された大学公認クラブで、現在約70名が所属しています。中学・高校時代に演奏できなかった曲や、懂れていた曲に大学生になって挑戦したいという思いから生まれました。音楽学部だけでなく美術学部の学生も参加しており、演奏に加えて、フライヤー制作や広報写真なども学生自ら手がけている点が特色です。

活動を終えて

今回の演奏会は、中高生の吹奏楽コンクールや部活動の定期演奏会で演奏されることの多い曲を中心に構成し、「中高生時代に演奏したかったが機会に恵まれなかった楽曲を取り上げ、演奏する」という目的を達成しました。

長岡京市内の中学校、高校やメンバーの出身校への宣伝により、多くの現役中高生たちが来場してくれました。また地元で吹奏楽を経験したことのある大人の方々からも「学生時代を思い出した」との感想が寄せられ、「中高生たちには憧れを、大人たちには青春を思い出してもらおう」というもう一つの目的も達成できました。

初の定期演奏会では企画・運営面で多くの課題がありましたが、メンバー全員が意見を出し合い協力して乗り越える中で、チームワークや計画性、柔軟な対応力の大切さを学びました。

音楽技術の向上に加え、支えてくださる方々への感謝や、地域と音楽をつなぐ意義を再認識する機会となりました。

京都市立芸術大学吹奏楽研究会
ぺんぎんウィンドオーケストラ
第1回
定期演奏会
2025.6.22(日) 14:00 開演 (13:30 開場)
京都府長岡京記念文化会館(長岡京市天神1丁目1-1)
入場料
【高校生以下】500円
【一般】1,000円
Instagram
チケットご予約フォーム
チケットは当日精算となります
お問い合わせ
penginwo.kyu@gmail.com



のれん百人衆寄付者さまへ

このたびは、「京都市立芸術大学吹奏楽研究会ぺんぎんウィンドオーケストラ第1回演奏会」にご支援を賜り、誠にありがとうございました。皆さまからの温かいご厚意により無事に演奏会を開催し、多くの方々に吹奏楽の魅力をお届けすることができました。今後も吹奏楽の魅力をたくさんの方々にお届けできるよう活動を続けてまいります。

心より感謝申し上げます。

京都市立芸術大学オーボエ・ファゴット専攻 「第24回ダブルリード大演奏会」への活動支援

団体について

私たちは、京都市立芸術大学音楽学部在学するオーボエ専攻生7名、ファゴット専攻生2名の計9名で活動している団体です。メンバーの内訳は、オーボエが4回生2名、3回生2名、2回生2名、1回生1名、ファゴットが1回生2名という構成になっており、幅広い学年の学生が集まり、学年を越えた繋がりの中で日々音楽に取り組んでおります。今年度は新たに3名の新入生を迎え、団体としても新たな体制でのスタートを切りました。フレッシュな雰囲気の中、私たちは互いに、これまで培ってきた経験や知識、自分が表現したいこと、演奏している中で発見した気付きなどを共有し合いながら、音楽を高め合っております。そして、それぞれの個性や音楽への向き合い方を尊重して、より豊かなアンサンブルを目指して日々の活動を行っております。

活動を終えて

本活動では、授業やアンサンブルで培ってきた演奏力を生かし、演奏会という形で多くの方に音楽を届けるという当初の目的を達成することができました。加えて、新規客層の拡大を目的に宣伝演奏を積極的に行ったことで、これまで接点のなかった層にも来場いただくことができました。また、ダブルリード楽器の魅力をより分かりやすく伝えるための新たな企画を取り入れた結果、初めて来場された方からも「分かりやすく楽しめた」といった好評の声をいただきました。

学生主体での企画・運営を通して、協働する力や責任感を養うとともに、「伝える」だけでなく「伝わる」表現の重要性を改めて実感しました。



のれん百人衆寄付者さまへ

この度は温かいご支援を賜り、誠にありがとうございました。皆様のお力添えのおかげで、充実した演奏会を実現することができました。音楽を通して多くの方に想いを届けられたことを大変嬉しく思っております。今回の経験を糧に、今後もより良い音楽を追求し、成長し続けてまいります。

「第9回京都市立芸術大学サクソフォン専攻生によるアンサンブルコンサート Saxtation」への活動支援

団体について

京都市立芸術大学サクソフォン専攻生によるアンサンブル団体です。サクソフォンカルテットからラージアンサンブルまで幅広い編成で活動しています。



活動を終えて

京都市立芸術大学サクソフォン専攻生によるアンサンブルコンサート「Saxtation」では、サクソフォン専攻生10人によるアンサンブルや、ソプラノサクソフォン4本を使ったカルテット、バリトンサクソフォン2本のデュオなど様々な編成でのアンサンブルを披露しました。また、メイン曲のN.リムスキー＝コルサコフ作曲の《スペイン奇想曲》は昨年に引き続き中野宏紀さんに編曲していただき、毎年出演してくださっている本学非常勤講師の國末貞仁先生、福田彩乃先生、そして打楽器には黒澤雄太さん、前川碧音さん、河内笑佳さんをお迎えし、総勢15人によるアンサンブルを披露しました。なかなか演奏されることのない編成に挑戦したり、打楽器や先生方も演奏したりすることで、技術面やアンサンブル力等の演奏面はもちろん、ホールの予約やご協賛の連絡、プログラムなども自分たちで考え自主的にコンサートの運営をすることで、演奏会を行うために必要な多くのことを学ぶことができました。



のれん百人衆寄付者さまへ

昨年度に引き続き、京都市立芸術大学サクソフォン専攻生によるアンサンブルコンサート Saxtationをご支援いただき、ありがとうございます。演奏会の成功は、皆様にご支援いただいたからこそだと、サクソフォン専攻生一同、心から感謝しております。特に計5名のゲストをお迎えして開催することができたのは、ご支援があったからこそ叶ったものでした。今後も、個々の技術やアンサンブル能力の向上を目指し、専攻生一同精進してまいります。この度は、本当にありがとうございました。